

プレスリリース（ご案内）

2025 年度第 1 回市民公開講座 日本人の三大死因から見える 「ケアする力」の重要性

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。11 月 30 日午後 2 時より開催する市民公開講座～日本人の三大死因から見える「ケアする力」の重要性～についてご案内申し上げます。院内にアートギャラリーを設け、クラシックコンサートを催すなど、患者さんの心情に寄り添うとともに、がんサロンや「みんなの健康塾」など疾患啓発にも力を入れる石心会 第二川崎幸クリニックの関川浩司院長先生を基調講演者に迎えます。「我が国の三大死因よもやま話」と題した講演では、急激な少子高齢化で変化する医療の現状から、今一度「生老病死」を見つめ直すことの重要性について話題提供して頂きます。日本人の死因のトップは未だに悪性腫瘍（がん）ですが、少子高齢化に伴い心不全または老衰で亡くなる方が急増し、がんで亡くなる方の比率は年々減少傾向にあります。その背景には医学の発展に伴う革新的な治療法や検査法が使えるようになってきたことがあげられますが、それに伴い退院後の「ケアの質」にも目を向けていく必要があります。病院と異なり、在宅医療では医師や看護師が患者さん（療養者）のケアに費やせる時間は限られています。本人や家族が少しでも多くのケアに関する知識とマインド（ケアする力）を持つことで、「ケアの質」を改善することができます。基調講演に続くパネル討論では、関川先生に加えて、地域ケアを担う医療多職種の皆さまが登壇し、がん・心不全・老衰の家庭におけるケアのあり方についてお話しします。

皆様のご出席を心よりお待ち申し上げます。

記

日時： 2025 年 11 月 30 日（日） 午後 2 時～午後 4 時半（午後 1 時 45 分開場）

場所： ZOOM ウェビナーによるオンライン開催

参加費： 無料

参加登録： 以下のサイトまたは右の QR コードから事前登録をお願いします。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_Dvn48cFiQeeMjIs7jCJbtw#/registration

申込締切： 2025 年 11 月 28 日（金） 正午

主催： 川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター



共催： 社会医療法人財団 石心会

後援： 川崎市、川崎市看護協会

基調講演： 我が国の三大死因よもやま話

演者： 石心会 第二川崎幸クリニック 関川 浩司 院長先生

講演要旨：

医療の進歩や生活習慣の変化に伴い我が国の死因の順位には近年大きな変化が見られます。厚生労働省の統計によると、2019 年以降、男女合わせた死因の順位では「老衰」が「脳血管疾患」を上回り、「悪性新生物」「心疾患」「老衰」が新たな三大死因の顔ぶれになりつつあります。本日はこれら 3 大死因のお話を通じて今一度「生老病死」について考えていただきたいと思います。

‘がん’については治療プロセスや病期進行度の決め方、さらには手術をはじめとした各種治療法について述べます。‘心疾患’については当院の診療データを通し心疾患で臨時に入院する方の現況を報告しさらには入院治療後のリハビリテーションについて述べます。‘老衰’についてはその定義や症状、来るべき時の対応などについて述べたいと思います。

厚生省は人生の終末期の処し方を常日頃から考えていただく A C P を推奨しています。今回の勉強会を通して一人一人が限りある人生について今一度考え、どのような場所でその日を迎えればいいのか、またそのためにはどのような備えが必要なのかを学ぶ機会になればと思います。

演者紹介：

福島県立医科大学卒業後、国内外の医療機関で外科・消化器外科を中心に幅広い臨床経験を積み、2006 年に社会医療法人財団石心会 川崎幸病院の副院長・外科部長に就任。地域の中核病院として川崎市の地域医療の発展と、後進の育成にも尽力。

2015 年 7 月には、川崎幸病院の外来部門である第二川崎幸クリニックが開設し、同院長に就任。地域の皆さまに寄り添い、身近で信頼できる医療の提供に努めている。

専門は外科・消化器外科、特に大腸疾患。

<ご略歴>

1980 年 福島県立医科大学医学部卒

1986 年 オランダ王立リンブルグ大学

1990 年 大原総合病院外科部長

2000 年 福島県立医科大学外科学第二講座助教授

2006 年 川崎幸病院副院長・外科部長

2007 年 川崎幸病院消化器病センター長/福島県立医科大学臨床教授

2015 年 第二川崎幸クリニック院長（現在に至る）



パネル討論： がん・心不全・老衰の患者（療養者）ケアについて

要旨：

日本人の死因のトップは未だに悪性腫瘍（がん）ですが、少子高齢化に伴い心不全または老衰で亡くなる方が増加し、がんで亡くなる方の比率は年々減少傾向にあります。勿論、その背景には医学の発展により、さらに有効な治療法や検査法が使えるようになってきたことがあげられますが、これからは退院後の「ケアの質」にも目を向けていく必要があります。病院と異なり、在宅医療では医師や看護師が患者さん（療養者）のケアに費やせる時間

は限られています。本人や家族が少しでも多くのケアに関する知識とマインド（ケアする力）を持つことで、「ケアの質」を改善することができます。このパネル討論では、基調講演者の関川先生に加えて、以下の医療多職種の皆さまが登壇し、がん・心不全・老衰の家庭におけるケアのあり方について討論します。

パネリスト（50音順）：

◆浅田 浩明 先生（理学療法士）

石心会 川崎幸病院 リハビリテーション部 部長

2009 年理学療法士免許取得、社会医療法人財団石心会川崎幸病院リハビリテーション科入職。以降、循環器疾患を中心に従事。2017 年に心臓リハビリテーション部門主任、2018 年よりリハビリテーション科科长を拝命し現在に至る。

日本理学療法士学会循環器認定理学療法士、心臓リハビリテーション指導士。

◆漆畑 俊哉 先生（薬剤師）

日本心不全薬学共創機構 代表理事。博士（薬学）

神奈川県内で薬局勤務を経て、2013 年になかいまち薬局（神奈川県中井町）を開設。薬をお渡しするだけの仕事に留まらず、人々を健康にすることをビジョンに事業展開している。

心不全対策の課題に対して薬局が前向きに取り組むための団体として、一般社団法人日本心不全薬学共創機構を 2024 年に設立し、その代表理事を務めている。

◆関川 浩司 先生（医師）

石心会 第二川崎幸クリニック 院長

基調講演者の紹介欄をご覧ください

◆深井 純子 先生（主任介護支援専門員）

石心会 在宅事業部 地域ケアコーディネーター

看護師として病院、施設、重度認知症デイケア勤務を経て 2000 年介護保険スタートと同時に介護支援専門員として在宅ケアに従事。センター方式の普及、OGSV による事例検討会の開催に取り組み、2007 年からは地域包括支援センターの主任介護支援専門員として、閉じこもり防止に向けた活動や多職種連携のための事例検討会を長年主催し地域のネットワーク構築に力を入れる。2020 年からは在宅医療・看護・介護サービスのコーディネーター業務に従事。主な活動として地域の支援者向けに無料の「おせっかいおばさんのミニ講座」を WEB で開催。講座にはこれまで延べ 2500 人超が参加している。

◆増田 邦子 先生（管理栄養士）

日本摂食嚥下リハビリテーション学会：認定士・評議員。川崎市栄養士会：役員。高齢者施設給食管理コンサルタント。1995 年より川崎市内の特別養護老人ホームに 28 年間管理栄養士として勤務。在宅食支援など後期高齢者の食介護支援における「口から食べることの大切さ」を研究課題としている。

モデレータ（司会）

◆島崎 真

ナノ医療イノベーションセンター・コミュニケーションマネジャー。博士（薬学）。

文科省/JST COI-NEXT 川崎拠点（プロジェクト CHANGE）副リーダー。

製薬企業の研究所および広報部門を経て、2019 年から現職。

***「みんなの健康塾」:**

社会医療法人財団石心会グループでは、地域の方たちの健康・維持促進、病気の早期発見・早期治療を目的に 2012 年より「みんなの健康塾」事業を開始しました。石心会の医師・理学療法士・管理栄養士など医療従事者らが中心となり、講演や動画などを通して健康情報の発信・啓発活動を継続して実施。近隣医療機関や自治体、学校、介護医療者などとも連携しながら、地域全体での健康維持・促進を推進しています。

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の 100%出捐により昭和 63 年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次に実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JST による「令和 4 年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」（共創分野・本格型）に川崎市産業振興財団（理事長：鈴木 毅、所在地：川崎市幸区、略称：KIIP）が代表機関となり申請し、2022 年 10 月 25 日に採択が決まった COI-NEXT 川崎拠点のことをプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目して看護業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー（ケアする力）を高め、誰もが簡単に扱えるケア製品やシステムを開発します。

* ホームページを刷新しました。

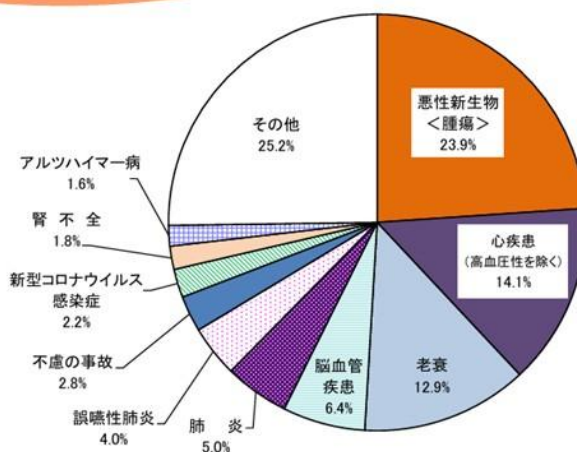
<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

2025 年 11 月 4 日配信

日本人の三大死因から見える 「ケアする力」の重要性

右の円グラフは、2024年の日本における死因の割合を示したものです。1位は相変わらず「がん」ですが、その割合は年々減少傾向にあります。2位は「心疾患」で大きく変わらず、近年急増しているのは3位の「老衰」です。10年前の2倍となります。脳卒中と感染性の肺炎は減少傾向にあります。老衰が急増している理由は、高齢者の増加によるものですが、在宅医療が担うことが多い「慢性心不全」の増加がここに含まれていると考えられます。

本講座では、がん・心不全・老衰といった3大死因をテーマとし、家庭での注意点などについて知識と理解を深めるセミナーにしたいと思います。



厚生労働省 令和6年人口動態統計月報年計（概数）より引用

日時： 11月30日（日） 14:00 ～ 16:30

場所： Zoom ウェビナー（オンライン）
事前登録が必要です。右のQRコードを携帯電話等で読み込み登録サイトにお進みください。

基調講演： 「我が国の三大死因よもやま話」
石心会 第二川崎幸クリニック 院長
関川 浩司 先生

パネル討論： 浅田 浩明 先生（理学療法士）
石心会 川崎幸病院 リハビリテーション部 部長
漆畑 俊哉 先生（薬剤師）
日本心不全薬学共創機構 代表理事
関川 浩司 先生（医師）
石心会 第二川崎幸クリニック 院長
深井 純子 先生（主任介護支援専門員）
石心会 在宅事業部 地域ケアコーディネーター
増田 邦子 先生（管理栄養士）
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士・評議員

島崎 眞（司会）
ナノ医療イノベーションセンター コミュニケーションマネジャー



第二川崎幸クリニック
関川 浩司 院長先生
ご略歴は右のQRコードから



事前登録サイト



プログラム
講演要旨
登壇者紹介
等